

# 保姆養成の主要點

倉 橋 惣 三

教育は人にあり、教師の養成を第一とするこゝは言ふまでもない。保育に就ても亦全然同様である。しかもその點に於て、我國の現状は甚だ力の入れ方が足りない。修業年限一ヶ年を以て足れりとするは、即ちその不熟意を一番明示してゐる譯であるが、さて内容に於て、何が最も力を入れらるべきかといふこゝは、いろ／＼に考へられないこゝもない。或は心理學的教養に、或は生理學的教養に、而して、それらのいづれかを特に主要素とする保育性に於て教育せられなければならぬこゝが論ぜられる。又更に、社會的にいふこゝも一つの強要點である。教育者といふよりも社會保護者としての任務に重きを置かうとするのである。又、或は保育實際のそれ／＼に熟練することを急務とする考へ方もある。勿論、保育は一つの術でもある。その術の習熟の必要は言を俟たぬのである。しかし、保姆養成の主要點は別にある。その人柄の陶冶である。

教育に於ても、その人柄は極めて重要である。しかし、保育に於ては、それが、それと比較にならぬ程重要である。保育はつまりは人柄による教育だからである。

さて、その人柄の陶冶のためには、所謂狹義の教師養成の方針だけでは出来ぬところがある。學問だけで人柄は出来上らないからである。但し、保育實際の習熟は、實はその人柄を練成するの途ともなる筈のこゝであつて、保育實習の大切さは、術の習熟よりも寧ろ人柄の練成にこそあるといつてよいのである。しかし、何分相手は幼児である。ついラク／＼と自己の身勝手に慣れた保育ばかりして、自己を省み、自己を訂正するといった風のこゝは出来なかつたりする。そこで、保姆養成には、直接に人柄を養ふ方法を講じなければならなくなる。

それは何か。つまりは人間としての教科である。思想が教へたい。藝術が與へたい。哲學が與へたい。詩が與へたい。

それはよく選ばれ、よく與へられて、その人柄を直接に肥えしめるものでなければならぬのは勿論である。思想家として、藝術家としての教育をしてるのでないことは勿論だからである。

今日の我國の保母の中には、學者もある。熟練者もある。がしかし、それが皆人柄に於て豊富な教養をもつ人のみはいへない。そこに幼児保育界の、何んさなき調子の低さもあるのである。色調のかすかさもあるのである。保母は幼児を指導するもので、自ら幼児であつてはならない。しかも往々にして、教養上の幼児であつたりする。童話があつて文學がない。童謡があつて音楽がない。子ぎもらをして、親しませるものがあつても、崇敬せしめるものがない。それだけの人柄の充實がない。

保母養成に、少くも二ヶ年を要求する理由の一も亦こゝにある。その加へらるゝ一年を以て學科の程度を高くし、又種類を多くするばかりではない。あの大切な年齢に於ける教養を深からしめて、その人柄を高くしたい爲である。その爲に或は日常の保育と直接に結びつかない教養が加へられるかも知れない。しかも、そうしてこそ、始めて人柄が養はれるのである。文學を教へたい。思想を教へたい。つまり、教師用以上の文化が與へたいのである。

教育が高等になり、専門になれば、知識そのもの、技能そのものが、分科して與へられてそれで濟むことが多くなる。幼児期ではそれが許されない。教師の人柄を以て教育せられなければならぬことは、蓋し最も大きいのである。今日の保母養成は、それにたえる保母を養成し得てゐるか。

年限を二ヶ年にし、三ヶ年にして、それを補ふことも最も望ましい。しかし、假りに現状の一ヶ年のまゝにしても、之れが主要點たることに變りはない。否寧ろ、却つて多くその點に留意せられなければならない。保母養成は職業教育であるには相違ないが、その職業は人間職業である。即ち、どんな人間を養成するかさいふことこそ、保母養成の主要點となるのである。しかも、現在の保母養成所の學科課程で、それをどこに見出せるか。修身の一科が、それを引受けるか。それは、少くも現狀ではない。そうするに、その學科に俟つべきか。何んさいふ空乏であらう。尤も、教育は科目ばかりでしてゐる譯でもない。一つに現狀のまゝにしても、此の主要點は、保母養成の全面に於て、豊かな供給をせられなければならない。それが、保母養成所に溢れてゐなければならぬ。そうであれば、そこでは、保母養成の主要點が缺けてゐないことになる。しかも果してさうなのであらうか。